



創立149年

石積っ子

教育目標 さいごまでやりぬく子 からだをきたえる子 もとめて学び子 ともを大切にする子

坂本小だより 令和5年 9月号

児童数591名 (24クラス)

坂本小HP <http://www.otsu.ed.jp/skmt/>

【校長 上畠 憲一】

2学期もよろしくお願ひします

今年の夏は間違いなくこれまでで最も暑い夏だったと思います。炎天下で活動することに自信のあった私もさすがに身体に異変を感じた日がありました（これは年齢から来るものかも知れませんが）。そんな猛暑の中の夏休み。楽しかった思い出やさみしかった思いもあったでしょうが、様々な経験をして有意義な日々を過ごしたであろう子どもたちが2学期をスタートさせました。大きな事故なく今日を迎えてくれたことに安堵と大きな喜びを感じています。2学期は行事も多く長丁場となりますが、子どもたちはきっと力をしっかり伸ばす学期にしてくれることでしょう。我々職員が今後もアンテナをしっかりと張って、一人ひとりの子どものためのがんばりを支えていきたいと思っています。どうぞ変わらぬご支援ご協力を賜りますようお願いいたします。



子どもたちの「自主性」の大切に！

～『enjoy baseball』～ 高校野球甲子園大会より

今年の甲子園はいろんな意味で話題の多かったのではないのでしょうか。エンジョイベースボールを合言葉に、実に107年ぶりの優勝を果たした脱丸刈りチームの慶應義塾高校。4年ぶりに解禁になったアルプス応援と土の持ち帰り。酷暑の中の14時プレーボールの決勝戦と熱中症対策等々、今年ほど話題の豊富な大会これまででなかったでしょう。（地元滋賀県代表の近江高校が予想に反して早々と敗退しまい、私自身が試合結果より周囲の話題に意識が向いてしまっていたのかも知れませんが。）

中でも、慶應高校の「エンジョイベースボール」からは学ぶべきものが多いかも知れません。「好きなことこそ自分で考えないと楽しくない」との信念を貫く森林監督。その自主性を尊重した指導方法に共感して集まった選手達が主力を占め、教えられるだけでなく、自分たちで考えてよりよい自分をそしてチームを目指していくことをモットーにしてきた慶應義塾高校の優勝です。「きれいごと」だとささやかれた時期もあったようですが、最高の形で間違っていなかったことを証明したのではないのでしょうか。まだまだ「脱丸刈り」が話題に上がっていますが、慶應の優勝を機に、そんな表面的なことが話題ならず、本当の意味での野球の楽しさを求めた選手の自主性に魅力を感じる子どもたちが増えるのは確実です。「厳しく激恐の野球」を「楽しむ野球」に方向転換したことを機に、全国的に強豪チームとして躍進した滋賀県の「多賀少年野球クラブ」の子どもたちも口を揃えて「慶應に行きたい」とテレビ番組の取材を受けて応えていました。

この夏の高校野球を通して、あらためて子どもたちの自主性が不可欠だと感じました。そのためには学校でも家庭でもエンジョイラーニングを目指し、与えられるだけでなく、自分の頭をフル回転させて考える場面を求め、子どもたちに自ら考え抜き新たな気づきを生む柔軟な思考力を身につけさせねばなりません。そして我々大人も、日々成長する子どもたちと一緒に新たな成長を追い続け、よりよい効果に結びつけることを意識し続けなければなりません。

＜2学期の主な学校行事 9/1 現在＞ 今後変更になることもありますので各学年の通信等でお確かめください。



夏休み中の様子

＜PTA 真夏のスポーツ教室＞

PTA と坂本学区民会議との共催で開催していただいたスポーツ教室。今年の夏を象徴するような暑い日になりましたが、文化厚生部の方々や講師の先生方が、内容を工夫してくださったり熱中症対策も万全にしていたりしたおかげで、親子で全身からわき出る心地良い(?)汗を流していました。様々な運動技能につながる前半のステップ運動も楽しそうでしたが、なんと言っても後半の水鉄砲を使った運動が子どもたちの心をつかんでいました。

＜日吉子どもサミット＞



これまで30年以上の長きにわたって続く「日吉子どもサミット」。日吉学区4小学校児童会代表、日吉中・比叡山中生徒会代表と各学区地域関係者として意見交流することで、自分たちの手で学校を、そして日吉地域をよりよくすることを目指しています。

今年は、地域特製の精進カレーも準備していただき、4年ぶりに完全復活しました。

前半は、互いの学校の活動を紹介し合うことで、各校が今後に生かせそうなことを考えました。どの学校も取組をしっかりと伝えてくれました。後半は各校混成のグループを編成し、びわ湖の環境保全に係る13のゴールを持つMLGs(マザーレイクスゴール)が目指すゴールをテーマに自分たちや地域でできることについてアイデアを出し合いました。教科書をみれば正解が載っている学習も大事ですが、巻頭にも書いたように、与えられるだけでなく、正解が一つではない問いに対して0から自分の頭をフル回転させて考え、新たな気づきを生む柔軟な思考は大事です。そういう意味でも今回は大変素晴らしい時間を過ごしてくれました。さらに、こういうことが、学校と地域の連携・協働をさらに進化・発展させることにつながっていくのだと思いました。

＜坂本寺子屋＞

坂本学区社会福祉協議会主催の「坂本夏の寺子屋」。今年度から場所を比叡ふれあいセンターから坂本小学校に移して開催していただきました。7日間で延べ665人も参加申込みがあり、急遽教室を4カ所に増やして実施しました。先生たちも会場準備をお手伝いしたり、学習を教えたりしながら子どもたちと関わることができました。子どもたちにとっては、家で1人勉強するのではなく友だちと一緒に勉強できるほっとする時間になったのではと思います。また、先生たちにとっては長い休み中の子どもの様子を見取ることができる良い機会になりました。

